



# 公益社団法人 認知症の人と家族の会

## えひめ支部だより 第 105 号

事務局 〒790-0843 松山市道後町2丁目11-14

愛媛県看護協会内

電話：089-923-3760 (直)

089-923-1287 (呼)

FAX：089-926-7825

E-mail：kazokunokai@nursing-ehime.or.jp

会員数 100 名 (4 月 1 日現在) 目標 140 名

# ゆっくり やさしく おだやかに

### 【もくじ】

- 代表挨拶 森川 隆  
2
- 本部電話相談員研修会に参加して  
玉乃井 雅浩 3
- 飛び出せ！ GBV28！ 井上 真喜子 4
- 愛媛県支部総会について 5
- 40周年記念誌原稿募集  
お知らせ



この会報は「赤い羽根共同募金」分配金の一部で発行しています



## 代表挨拶

支部代表 森川 隆

令和4年の春を迎えることができました。コロナ感染拡大やロシアのウクライナ侵攻と暗いニュースがある中、普通に暮らせることが一番の幸せと思えるようになりました。以前より日々の小さな幸せや恵みに気づけるようになりました。「当たり前なのに感謝できることが、ささやかな幸せの秘訣」と教わったことがあります。人は生きていだけで幸せなのかもしれません。

コロナ感染が収まらない中、今年も桜の花が咲き、その美しさを愛でることのできたことを心から感謝したいと思います。

以前読んだ渡辺和子氏著作、「幸せのありか」の中に、病の意味について次のような言葉が載せられていました。

「病を得て、一年近く入院していた一人の卒業生が、退院後に手紙をくれました。『久しぶりに地面を踏んだ時には、心が躍りました。今の私には、当たり前が輝いて見えます』この人は、輝くもの、『宝』を以前よりも多く持つ人になりました。病んでこそ得られる賜物を思う時、私達は病気もまた、神から与えられる一つ恵みなのだと気づくのです」と。

「病」は、私達が気づいていない日々の宝物に気づかせてくれるもの。生きるということがどれだけ奇跡的なことか、教えてくれるもの・・・病んで初めて知る普通に生きていることの幸せ・・・私達は健康でいると、既にある宝、そのありがたさを忘れ、足りないものを数え、日々不平や不満を言う生活を過ごしてしまいがちです。今日の朝、元気で目が覚めたことをどれだけ感謝した人がいるのでしょうか。今日この場にいられることを輝いて見ている人がどれだけいるのでしょうか。その幸せに気づかせて頂くため「病という薬」を、時として人は与えられる。「人生に何一つ無駄なものはない」と教えられたように思います。

社会には解決すべき課題がまだまだ多くありますが、同時に、どのような環境でも感謝して生きることの大切さは変わらずあるように思います。

私達は「こうあってほしい」と願い、結果が伴わないと不平不満に毒されがちですが、「神様はあなたが望むものではなく必要なものを与える」の言葉のように、結果は望むのではなく感謝で迎えることが幸せの秘訣かもしれません。

コロナ禍にあっても感謝を忘れず、自分たちのできることにチャレンジしながら、認知症がさらに地域社会に理解される、地域で認知症を支える一助になれるよう努めて参りたいと思います。今後も会員の皆様と共に歩んで参りたいと思いますので、どうぞよろしく願いいたします。



## 本部電話相談員研修会に参加して

家族の会会員 玉乃井 雅浩

「家族の会」のつどいに参加して、認知症の当事者及びご家族からお話しを聴かせていただく中で電話相談員のことを知り、自分が暮らす地域で自分にできることの一つだと感じ、研修会に参加させていただきました。

講義で、京都桂病院精神科岸信之先生の「精神疾患を併せ持つ認知症の人や介護者への対応」で、精神疾患としてどの部分に障害が起きているかで疾患を判別し、当事者のインプットからアウトプットによって表現される言動の違和感の程度が、精神疾患の重さの程度にもなり得ることを学び、病理の重さと精神疾患の重さの概念図を用いながら代表的な疾患・事例を挙げながら丁寧に説明していただき関心高く聴講できました。

BPSD（認知症の行動・心理症状）からのものと思われていた妄想発言が、実は認知症ではなく妄想性障害による言動であったケースや器質性幻聴という難聴が原因によるケースなど、認知症の症状と他の疾患と見分け難いものも多く、当事者自身も上手く心身の違和感を表現できないことが多いため、日々の言動が精神的なものからなのか、身体的な異常による気分の変調からなのか気づけるよう、日頃から意識していつもと違うことはないか観察をすることが大切であることを学びました。

午後からのグループワークでは、相談者からの攻撃的な言動への対処に関して落ち着いて対処できるために、相談者が怒る心理状態の原因をどう推測するか考えることができました。

相談者は孤立していて、話の内容も自分の問題と母親の問題が混在していることも多いことなど、その人の「今」に至る背景を考えることは必要で、相談員側が発したくなる「大変ですね」の言葉が怒りを助長させることもある。

「大変ですね」は介護していれば何度も聴くフレーズで、相談する側からしたら「大変ですね」だけでは、これ以上話しても打開策はないように受け取ってしまうこともあるかもしれない。そのために相談者にとっては「大変ですね」に拒絶反応を示し、それが怒りとして現れてしまう可能性もあることを相談員側がわかっている必要だし、安易に使う言葉でないことを意識して傾聴しなければならないと感じました。どうにもならない経過を見守っている介護者のおもいに寄り添うために、相談員が労う言葉は相談員が快く感じてもらえるような言葉の引き出しをたくさんもっていることが必要であり、それは経験豊かな相談員の先輩が後輩へこれからも継続して継承していくことが大切だと感じました。

研修全体を通して、介護者に「大変」を一人で抱え込ませないために、同じように介護している人たちと話し合える場があることを、地域みんなが理解できる環境にするための啓発を積極的に行っていくことも必要だし、そのためにも「家族の会」の存在が地域で認知されなければならないと感じました。



# 飛び出せ！GBV28！～施設の中だけじゃもったいない！～

世話人 井上真喜子

私は、普段はグループホームの管理者兼ケアマネージャーとして働かせてもらっています。

ほどほどの田舎で、春は桜がとってもきれいです。近くの川でエビやモクズガニを捕獲して食べたりしています。（とっても美味しい！）



Gigi  
Baba  
Volunteer  
28誕生！



そんな環境の中、職員も入居者の皆さんものびのび生活していますが、おばあちゃんたち、本当によく働くんです！掃除洗濯、草引き、食事の下ごしらえ、畑の世話…それでも施設内の中だけでは時間を持て余しています。

『もったいない！』と思いついたのが、ボランティアでした。

- ・入居者主体のボランティアの会である。
- ・お年寄りならだれでも会員になれる。
- ・職員はあくまでお手伝い。黒子に徹する。
- ・平成28年発足。気持ちは永遠に28歳！という事での28。
- ・掃除・洗濯・草引き・話し相手・イベントの手伝い・サクラ・歌・繕い物などできることは何でもOK。
- ・会費は無料。活動費は検討中。

GBV28

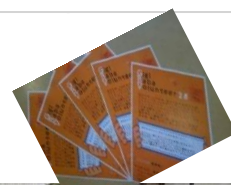
とは



ユニホーム・名刺・チラシ等を作り、会長さんたちと営業にも行き、近くのレジャー施設の掃除や隣町のホスピスの草引きなどをさせてもらいました。普段は杖をついたり、押し車を使っているばあちゃんたちも、そんなのそっちのけです。しかも仕事が丁寧！妥協しません。あまりの元気さにスタッフがギブアップするぐらいでした。

「楽しかったなあ。」「また行きたいなあ。」「今日は最高の日やった！」とすがすがしい笑顔でアイスクリームを食べているばあちゃんたちを見ながら、私も最高に美味しいガリガリ君をいただきました。それからもずっと、ばあちゃんたちは張り切っています！よく食べよく寝て、帰宅願望もなくなりました。『頼ってもらえる』っていいですね。やる気が出ますよね。

今は、コロナ禍で活動ができていませんが、自施設だけではなく、周りのじいちゃんばあちゃんたちも巻き込んでいきたいと思っています。皆様、ボランティアのご依頼、ご参加お待ちしております(^\_^)



## 愛媛県支部総会中止のお知らせ

新型コロナウイルス感染防止のため、5月14日（土）に開催を予定していた2022年度愛媛県支部総会は開催を中止し、昨年度と同様、書面による支部総会を実施致します。

議案書と書面表決書を同封致しますので議案資料をお読みいただき、同封のはがきに賛成、反対の表決をいただきますようお願い致します。

### 記

- ・第1号議案 2021年度活動報告
- ・第2号議案 2021年度決算報告
- ・第3号議案 2022年度活動計画（案）
- ・第4号議案 2022年度予算（案）
- ・第5号議案 役員改選 世話人の交替
- ・第6号議案 本部総会への代議員選出について
- ・第7号議案 その他

書面表決締め切り 2022年5月14日

## 本部総会・支部交流会のお知らせ

2022年6月4日（土）～6月5日（日）

参集・Zoom（京都）

※会員の方は代議員として出席できます。出席を希望される方は、総会資料の第6号議案に基づいて支部事務局まで5月14日までにご連絡ください。

## 会員継続のお願い

新年度を迎えました。いつも公益社団法人認知症の人と家族の会愛媛県支部の運営につきまして多大なご支援・ご高配を受け賜わり厚くお礼申し上げます。家族の会は会員の皆様の会費によって支えられています。本部会報の3月号に会費納入の払込取扱票が同封されております。2022年度も引き続き会員の継続をよろしく願います。

## 40周年記念誌原稿募集！

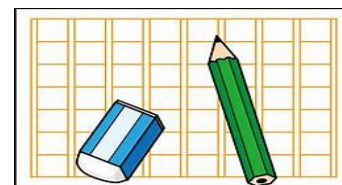
愛媛県支部は、1981年3月看護協会会長であった杉本富恵氏を中心にして「呆け老人を抱える家族の会」が発足し、看護協会の施設の中に事務局を置いて活動が始まりました。活動の3つの柱「つどい」「会報」「電話相談」を中心とし活動してきました。昨年設立40周年を迎えたことを記念して記念誌を発行することになりました。

そこで会員の皆様から、家族の会についての思い出等を募集したいと思います。つどいでの話し合いやご自身の介護体験、介護の工夫、また写真等あればよろしくお願ひします。

※締め切り 2022年6月末

※郵送・FAX・メールで事務局までお願いします。

思い出



## つどいについてのお知らせ

※2022年度より若年性のつどいは、若年性認知症コーディネーターに移管された為廃止と致しました。

※通常のつどいの開催については、5月9日の松山のつどいは中止です。6月以降の開催については、感染状況をみて決めていきたいと思ひます。他の会場のつどいは、それぞれの問い合わせ先に確認をお願いします。ご理解とご協力をよろしくお願ひします。

## 投稿のお願い！

支部だよりでは皆様のご意見・ご要望・ご感想・ご提案・短歌や俳句など自由に募集しています。介護体験もお待ちいたしております。皆様のお力をお借りして、紙面の充実と会員相互の交流を図っていききたいと思ひます。事務局までFAX、郵送、メール等で宜しくお願ひします。

## 編集後記

コロナ感染拡大でつどいの中止が続き、皆様とお話が出来ない状態になっています。コロナ感染が落ち着けば、再開予定です。月・火・木・金の10:00~16:00まで電話相談行っておりますので、気軽にお電話ください。

(編集委員 宮子・上岡)

